



吉備学習システム販売 株式会社

川上 万壽夫

代表取締役

岡山県岡山市

ん。道具（ツール）に任せられる部分は道具に任せるべきではないでしようか。

指導ツールとして優れたデジタル教材・機器が数多くリリースされています。様々な学力レベルの子どもに対応でき、わかりやすく解説してくれるので効率よく知識のインプットが可能です。先生（人）は、指導面での負担が減った分を生徒のやる気・モチベーションをアップさせてケア面に徹することで、「面倒見のいい塾」という評価に直結するでしょう。それとツールを活用すれば

日企や多くの先進企業と交流をもつた
いただき、そして新たなご縁を頂戴
できたことを深く感謝申し上げま
す。

道に迷ひを嘗めたりための必要な作業は、当たり前のことですが、引き受けた子どもの「学力を上げる」ことができるのです。

私は学力というものを「学力＝お手本＋作業」と考えています。まず、「お手本」とは学校や学習塾における授業です。そして「作業」とはトレーニング、つまり演習です。授業で習った知識をおさらいすることと、理解し知識が定着すること、こ

本誌創刊1周年記念特集号・第2弾で述べさせていただきましたが、多様化する子どもの学力レベルに対して、「お手本」の部分をすべてマンパワーで対応するには限界があります。だからこそ「ツール」が必要なのです。例えば、畑を耕すのに鍬1本とトラクターではどちらの作業効率がいいかは言うまでもありません。道具(ツール)に任せられる部

ツールを上手に活用している塾が伸びているように感じます。

そして、ツールを活用して学力の上がる「教務システム（指導方法）」の構築が重要です。確固たる教務システムが他塾との差別化をもたらし、選ばれる塾になれるのではないかでしょうか（実際に今までとは異なる指導方法が生まれつつあるようですが）。

ツールを上手に使つて、
生徒の学力を上げる塾が支持される

ば、学習塾経営において最も頭を悩ます人件費が削減できることも強みです。また逆にアルバイト講師が集まらないなど人材確保が困難な状況をカバーしてくれるといった、足りない部分を補うことも可能ですが。